

学校アクションプラン

平成29年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	進路支援
重点課題	<p>(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校（願書出願をした大学の中で最も行きたい大学）合格を支援する。</p> <p>(2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。</p>
現 状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかつたり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	<p>(1) 生徒の第一志望校（願書出願をした大学の中で最も行きたい大学）合格率</p> <p>(2) 生徒1人あたりの面接実施回数（担任、副担任、授業担当者）</p>
	<p>卒業生数の65%以上</p> <p>1・2年生：6回以上、3年生：12回以上</p>
方 策	<p>(1) 学習時間のスタンダードは、＜平日：1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間＞＜休日：1年・4時間、2年・6時間、3年8時間＞とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。</p> <p>(2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。</p> <p>(3) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。</p> <p>(4) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。</p> <p>(5) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。</p>
達成度	<p>(1) については61%。目標には達していないが、60%を超えたのは評価できる。</p> <p>(2) については、各学年とも目標以上に達成できた。</p>
具体的な取組状況	<p>(1) 毎朝、前日の学習時間を書かせることを通して自分の生活を振り返らせている。9月中旬段階で、1年・2年とも平日2時間、休日3時間程度であり、3年生は平日4時間、休日7時間程度というのが現状である。</p> <p>(2) 1年生については、生活指導と面接を中心に初期指導（早く高南の生徒にする）を展開した。1学期の早い段階からその効果（例えば、挨拶などがきちんとできる）が現れている。</p> <p>(3) 3年生12月段階で、東大・京大を含んでの難関10大学志望者が35名（昨年28名）となっているので、高い志望を貫こうとする生徒が例年以上に多くなっている。もちろん、センターの結果で変化はあるが、難関大学だけでなく全校を挙げて最後まで支援する態勢になっている。</p> <p>(4) 各学年とも外部模試の結果分析を模試ごとに行い、全員がすべての学年の状況や情報を共有できる仕組みになっている。</p> <p>(5) 3年生の成績状況や志望状況は、全校で共有する仕組みになっている。学年の枠を超えて、全校態勢で3年生を支援する。</p>
上記方策の(1)～(5)に対応して記述	
評価	B 達成目標(1)については、昨年度53%→今年度61%
学校評議員の意見	1年生の初期指導は大切である。生徒の持っている素質や能力を最大限発揮できるようお願いしたい。また、将来の職業を見据えた進路指導をしてほしい。
次年度に向けての課題	<p>(1) 面接による生徒支援は次年度も変わらず実施していきたい。</p> <p>(2) 第一志望校の合格率が判明した時点で原因を探り、次年度の対策を考えたい。</p> <p>(3) 難関大学志望者の少なくとも半数が出願するようにしなければならない。今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。</p>

重点項目	学校生活
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成
現 状	礼儀、時間厳守、身だしなみなどの点で、南高校生としてふさわしい品格が身につけている生徒が増えている。多くの生徒が主体的に関わる活動が増え、活発に取り組む生徒が増えつつある。
達成目標	(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみを中心に、南高校生としてふさわしい品格が身につけていると感じている生徒の割合 80% (2) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 80%
方 策	(1) 日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。 (2) 部会の定例化や学年との連携を密にすることで、現状の学校生活の問題点や情報を共有しながら、凡事徹底がはかれるように互いを尊重し協力して指導する。 (3) 服装頭髪指導や自転車鍵かけ点検などを定期的に全体指導するだけでなく、日頃から継続して学校全体で指導する。 (4) 生徒が主体的に校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、執行部や校紀委員会を中心に学校生活のさらなる充実につながる活動を行う。 (5) 各行事の目的、テーマを明確にし、できるだけ多くの生徒が企画、運営に関わることができるように工夫する。 (6) 外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。(マナーセンスアップ教室、さわやか運動など)
達成度	校紀委員会実施アンケート結果(10月実施、*のみ12月実施) あいさつ よくできている: 25% できている: 65% 身だしなみ よくできている: 38% できている: 59% 時間厳守 よくできている: 32% できている: 61% 品格 しっかり身につけている: 14% 身につけている: 77% *学校生活への自主的な取り組み: しっかり取り組んでいる: 18% 取り組んでいる: 70%
具体的な取組状況	(1) 校内巡視、校門指導、交通安全指導を毎日行い、あいさつ、身だしなみ、通学マナーについて生徒の意識の向上を図った。 (2) 部会を定期的にもち、学年との連絡を密にし、共通理解を図った。 (3) 全校集会などにおいて、身だしなみ・マナーなど、規則を守り自覚して行動するように指導した。 (4) 「さわやか運動」を校紀委員会、各部活動が中心になって、保護者、職員とともに実施した。また、校紀委員会を定期的に開催して、ネットトラブルや品格、スマホ利用に関するルール作りを行った (5) 地元行事、施設訪問などのボランティア活動に生徒が参加する機会を設けた。また、体育大会、南高祭などで、生徒の主体的に行動できる場面を提供した。 (6) 1年生を対象に、あいさつと着こなしの講習会を実施した。
評 価	B 生徒の自己評価は高い数値を維持している。
学校関係者の意見	高岡南高校生としての誇りを持てるよう人格の育成に努めてほしい。主体は生徒であるため生徒による評価は理解できるが、第三者の評価も必要と思われる。
次年度へ向けての課題	全職員が生徒指導のベクトルを揃え、生徒の品格・主体性の向上にむけての指導にあたれるよう、情報共有、共通理解を円滑に行う。また、生徒との信頼と愛情に基づいた生徒理解をさらに進めるとともに、日頃から職員間の良好な関係を築いておく必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校の活性化	
重点課題	将来への大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成	
現 状	平成28年度の実績 ・キャリアデザイン・プロジェクトSの実施 ・土曜授業での公開授業 ・海外研修の実施	
達成目標	(1) キャリアデザイン・プロジェクトSの実施により、進路目標が明確になったという生徒の割合 70% (2) 土曜公開授業への参観者 150人 (3) 海外研修への参加者について、将来の進路についてより深く考えるようになった積極的に行動できるようになったという生徒の割合 100%	
方 策	(1) ・1学年のキャリアデザインゼミナールについて、地域や保護者の協力を得て、社会や自らのあり方を考えさせ、将来像を描きやすい講座を設定する。 ・2学年の探究的な活動では、大学との連携により大学の研究内容に触れる機会を設け、進路目標を具体化できるようにする。また、グループでの発表の機会に互いに評価することによって、達成感を持たせる。 (2) ホームページ等を活用して生徒の活動をPRする。 (3) 海外研修の内容について、異文化交流を通じて、自主的に考え行動できるプログラムを設定し、積極的に活動させる。	
達成度	(1) 1学年キャリアデザインゼミナールについて、学ぶことの大切さを感じた生徒98.7%。2学年探究的な学習について、進路選択に役立ったと感じた生徒84%。 (2) 土曜授業(9月、11月各1回)への参加者は、約50人 昨年度から大きく減少しているのは、PTAの研修会と同日に実施できなかったことが影響していると考えられる。 (3) 海外研修への参加者について、進路について深く考えるようになった、積極的に行動できるようになった生徒100%	
具体的な取組状況	(1) ・1学年で、7月にキャリアデザインゼミナールとして10講座を設け、県内で活躍する講師を招いて、職業や社会貢献、生き方などについて伺った。12月には、県内企業研修として一人2カ所を訪問し、見学や事業内容の説明を受けたのち、本校OBなどから話を伺った。 ・2学年では、5月から11月までの期間で、富山大学の教授などからアドバイスを受けて(5月大学訪問、本校で9月中間発表時、11月講座内発表時)、グループでの探究的な活動を行った。講座は10講座(分野)を設けた。発表はポスターセッションの形で、1学年の参加と公開とした。12月から3月までは、個人でテーマを設けて研究を進め、論文にまとめる予定である。 (2) 学年便りやポスターを作ることで周知を図った。 (3) 海外研修については、参加希望者が多く、30名を選考した。事前研修を6回実施したほか、連絡会、生徒間の打ち合わせなども行った。帰国後、事後研修を2回と3月には保護者や次年度希望者などにも公開して報告会を実施した。その際には、大学教授に講評をいただいた。	
評 価	B	どの活動でも、意欲的に取り組む生徒が多く見られた。
学校関係者の意見	キャリアデザインや探究的な活動は、連携機関の協力を得て充実させていただきたい。海外研修も効果的な取り組みであるので継続してほしい。	
次年度へ向けての課題	1学年、2学年ともに総合的な学習の時間を使って、引き続きキャリアデザインプロジェクトSを実施するが、見通しをもって学年との連携を図る。また、講師、業者などとの連絡は早めに行うことはもちろん、実施記録、資料などは保存し、継承する。海外研修については、目標にてらして計画的に行い、効果的なものとする。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	ボランティア活動	
重点課題	1 学年：自発的なボランティア意識の向上 2 学年：自発的なボランティア意識の向上 3 学年：生徒のボランティア意識の向上	
現 状	1 学年：これまでのボランティア活動への参加が学年の5割程度 2 学年：生徒会企画のボランティア活動への参加が学年の3割程度 3 学年：ボランティア活動への参加が学年の2割程度	
達成目標	1 学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 2 学年：自主的なボランティア活動への参加が学年の5割 3 学年：ボランティア活動への参加が学年の3割	
方 策	1 学年：①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 2 学年：①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3 学年：①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。	
達成度	1 学年：2クラス合同HRで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。(11/9) 2クラス合同HRで「除雪作業」を実施。正面玄関付近・図書館付近(2/7) 達成度は学年の100% 2 学年：3クラス合同HRで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。(10/5) 3 学年：約70名の生徒がボランティア活動に参加 達成度は学年の35%	
具体的な取組状況	1 学年：2クラス合同HRで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。(11/9) 2クラス合同HRで「除雪作業」を実施。正面玄関付近・図書館付近(2/7) 2 学年：3クラス合同HRで「クリーン大作戦」を実施。高岡南高校～戸出商店街～戸出駅周辺の清掃活動を実施。(10/5) 3 学年：クラス(40名)のHRで戸出周辺のゴミ拾いを実施(10/26) 生徒会でのボランティア活動への参加(約30名)	
評 価	A	各学年で目標を達成した。
学校関係者の意見	ボランティア活動は視野を広げ、心を豊かにするよいきっかけある。しかし、生徒自身の自発的な活動であるため、一朝一夕には意識が高まらない。小学校からの積み重ねが大きな要因になっていると思われる。今後、地域の小学校・中学校との連携を行ってほしい。	
次年度へ向けての課題	HR活動や生徒会活動でボランティアに取り組むことで、生徒の意識も向上したと思われるので、次年度も継続して活動する。また、学校課題小委員会の「地域連携小委員会」からの提案にあった、小冊子「戸出によっといで」(地域の文化遺産継承事業実行委員会発行)を生徒に配布し、戸出に対する関心を高めていきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	教師力向上	
重点課題	教科、学年、年代を超えて学び合う組織作り	
現 状	<p>(1) 各教員がそれぞれに指導力向上を目指して日々努力を重ねているが、教科、学年、年代を超えた学び合いの機会が少ない。</p> <p>(2) ここ数年で増加した若手教員に対する、学校全体での育成体制があまり整っていない。</p>	
達成目標	<p>(1) ・互見授業を参観した回数（2回以上）、参観された回数（2回以上） ・互見授業の相互参観や意見交換を通して、学びがあったと感じる割合（80%以上）</p> <p>(2) 若手教員と中堅教員が相互に学び合う校内研修の実施回数（2回以上）</p>	
方 策	<p>(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を1回以上参観する。 ③各教員が、自分の授業の工夫や見所を発信する。</p> <p>(2) 年次研修を活かした、若手教員と中堅教員が学び合う校内研修を16年次教員が企画・運営する。</p>	
達成度	<p>(1) ・参観した回数2回以上88% ・参観された回数2回以上59% ・他教科を参観した回数1回以上79% ・学びがあったと感じる割合85%（報告書の記述より）</p> <p>(2) 3回実施</p>	
具体的な取組状況	<p>(1) 互見授業を前期、後期に設け、参観後に各自報告書を記入し、提出した。互見授業期間以外にも、他校の6年次教員による「先輩に学ぶ研修」の受け入れを生かし、授業を参観する機会を増やした。</p> <p>(2) 初任者、2年次、3年次、11年次、16年次の各教員の年次研修を、年次交流研修として合同で行った。1学期に2回、11年次教員と初任者の授業参観と事後研修を行い、2学期には他校の6年次教員を交えての年次交流座談会を1回行った。3学期には3年次教員による研究授業を2回行った。</p>	
評 価	B	数値目標は概ね達成できたが、内容にはまだ工夫の余地がある。
学校関係者の意見	学校の総合力を高める効果的な取り組みである。会社では世代間の考え方、行動の格差が問題となっている。先生がコミュニケーションを多くとって、明るく生徒に接してほしい。	
次年度へ向けての課題	<p>(1) 互見授業については、授業のポイント等を事前に授業者が発信するなど、授業者と参観者ともに学びを深められるよう工夫したい。また、参観報告書については、振り返りがしやすいよう、内容を検討したい。</p> <p>(2) 年次研修を合同で行ったことは、若手教員と中堅教員が学び合う場となり効果的だった。今後は、ベテラン教員にも関わってもらいながら、さまざまな年代が、学年や教科を超えて関わり合える場にしていきたい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)